

手作り教材の現状と保育者の意識

The Present Condition of Handmade Teaching Materials and the Consciousness of a Childminder

細野一郎 西方毅 濱野亜津子 伊藤優

(Ichiro HOSONO Tsuyoshi NISHIKATA Atsuko HAMANO Yū ITŌ)

I. はじめに

保育教材の歴史は、保育の歴史そのものであるといえる。かつての保育関係者は保育方法を模索するなかで、手作りの教材に情熱を傾け、子どもとの関係を密なるものにし、保育目標に向かって彼らの活動をより活性化させることに努めてきた。F.フレーベルは「恩物」を創造し、M.モンテッソーリは「教具」を考案したが、保育活動を実践のレベルで表現すれば保育とは方法論の問題であるといえる。その方法論の具体的手段が教材であるということができよう。

保育教材ということばについてはさまざまな定義がなされ、物的なものを中心とする解釈から、保育活動に関する全てのものを包含したもとのまで解釈には幅がある。しかし、一般的には保育目標を達成させるための文化的素材の総体であると定義できよう。即ち、保育教材の究極的意義は子どもの心神の発達をよりよく促すためのものであるといえる。しかしこの場合、子ども自身の生活や遊びの中で無意識のうちに偶然的に教材となりうるものと、保育者の意図的手段として事前に用意されたものを用いる場合とがある。本稿では、主として後者の意味で保育教材のことばを用いたい。しかしそのことばのなかには、子ども自らの活動に利用する素材性を指す場合（例えば、自然物や廃品物を保育者が用意するなど）と視聴覚教材がある。

さて、本研究の目的は、現代の子どもを取り巻く幼稚園、保育所での手作り教材についての意識とその実態に関する内容である。かつては、保育教材といえばほとんどが手作りによる教材であることが当たり前の世界であった。それが時代の変遷と共に何時しか保育教材のマスプロ化に伴う量産化が進み、平均的化と画一的教材に陥り、保育内容のマンネリ化の要因にもなっている。なかでも保育者との温かい人間関係性は保育活動における重要な要素であり、何時の時代においても不易な条件として無視できない側面を持っている。小学校教育における教材は教科書を中心に国が指定しているのに対し、幼稚園、保育所においては特に定められた教材はなく、多くが保育者の創意工夫に委ねられ、各園の現状に即して用意されるべきことが基本的な在り方になっている。しかし現実的には全てを手作りと言うわけにはいかない。せめてペープサート、パネルシアターといった視聴覚教材については手作りの良さを生かした保育教材として、可能な限りその有効性を発揮すべきものと理解している。

今回は、首都圏と青森・沖縄県の幼稚園・保育所関係者による「手作り保育教材に関して」の意識とその実態について調査を行なったものであり、統計処理に基づいて報告する。

Ⅱ. 調査方法

1. 調査対象

関東地区（東京都、神奈川県、千葉県）、青森県・沖縄県の幼稚園・保育所で働く保育者800名を対象とした。

2. 調査方法

2007年6月、ランダムに選んだ関東地区（東京都、神奈川県、千葉県）100園と青森県50園、沖縄県50園のそれぞれ幼稚園と保育所に質問用紙を1園2通郵送し、各2人の先生方に回答していただき、返信用封筒にて回収した。質問用紙回収率は309名（39%）、有効回答数は255名（32%）であった。

3. 調査内容

保育現場で用いられる「手作り保育教材」における保育者の意識とその実態を調査することを目的とした質問紙法である。

質問紙の内容は、「回答者の属性について」3項目、「手作り教材の意識について」2項目、「手作り教材の保育現場の実態について」4項目、「視聴覚教材の意識について」2項目、「視覚教材の保育現場での実態について」3項目である。回答は、単数選択と複数選択がある。

Ⅲ. 結果と考察

1. 結果

(1) 表1「手づくり教材についての考え」について

全体をみると「絶対に手作りの方がよいと思う」「できれば手作りがよいと思う」という手作り教材について肯定的な考えが67.1%と最も多く、「手作りでない方がよいと思う」という手作り教材について否定的な考えは0.0%であった。ただし、「どちらともいえない」という賛否両論の考えは39.9%である。このように、6割以上の保育者が手作り教材について肯定的に捉えている。また、手作り教材の使用がよいか否かの選択に関して「できれば手作り教材がよい」というように断定的でなく幅広い意味合いを持たせているにも関わらずその選択肢を選ばず、「どちらともいえない」にしている保育者が目立っていた。この「どちらともいえない」に着目してみると、地域別、施設別で差はあまり見られないが、経験年数別をみると、「～3年」（20.0%）、「～10年」（21.3%）、「～20年」（37.1%）、「21年以上」（41.0%）と経験年数が高いほど、「どちらともいえない」という考えの保育者が増えていた。

表1 「手作り教材についての考え」

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
絶対に手作りが良いと思う	2.4%	0.8%	3.6%	3.6%	0.9%	6.7%	2.7%	1.4%	2.1%
できれば手作りがよいと思う	64.7%	65.0%	65.7%	61.6%	68.4%	73.3%	76.0%	61.4%	56.8%
手作りでないほうがよいと思う	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
どちらともいえない	32.9%	34.2%	30.7%	34.8%	34.8%	20.0%	21.3%	37.1%	41.0%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(2) 表2 「手作り教材のよさ」について

全体でみると「手作りの温かさがある」(51.4%)、「創意工夫の余地がある」(53.3%)が多数意見であり、「費用がかからない」(10.2%)、「画一的でない」(17.3%)が少数意見である。「その他」(2.0%)には以下のような意見があった。

- ・「子どもが喜ぶ」
- ・「自分の意図を反映できる」
- ・「子どもの発達に合わせたものが作れる」
- ・「子どもの発達や興味を持っているものを作ることができる」
- ・「ちょうどその時の子どもの発達に合ったものを作ることができる」
- ・「教諭の力になる」

全体、地域別、施設別、経験年数別それぞれをみると回答傾向は似通っていた。

表2 「手作り教材のよさ」(複数回答)

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
手作りの温かさがある	51.4%	53.3%	50.7%	45.7%	58.1%	53.3%	56.0%	47.1%	50.5%
費用がかからない	10.2%	13.3%	8.6%	8.0%	12.8%	6.7%	8.0%	12.9%	10.5%
創意工夫の余地がある	53.3%	50.8%	56.4%	54.3%	52.1%	46.7%	53.3%	57.1%	51.6%
画一的でない	17.3%	24.2%	10.7%	21.7%	12.0%	13.3%	16.0%	10.0%	24.2%

(3) 表3 「保育現場での手作り教材の使用状況」について

保育現場での現状を考察する設問だが、全体では、「使用している」(38.8%)、「使用していない」(2.0%)、「既製のものと併用している」(59.2%)、「その他」(0.0%)である。全体、地域別、施設別、経験年数別それぞれをみてみると回答傾向は似通っている。手作り教材の使用状況は幼稚園と保育所では、職務環境、保育環境が異なっているが、使用頻度に大きな差は見られなかった。

表3 「保育現場での手作り教材の使用状況」

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
使用している	38.8%	34.2%	42.1%	42.0%	35.0%	40.0%	28.0%	47.1%	41.1%
使用していない	2.0%	0.8%	2.9%	2.2%	1.7%	0.0%	2.7%	2.9%	1.1%
既製のものと併用している	59.2%	65.0%	55.0%	55.8%	63.2%	60.0%	69.3%	50.0%	57.9%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(4) 表4 「折り紙の使用状況」について

全体では、最も多かったのが「広告紙や包装紙などを利用した手作りのものと市販のものを併用」(57.3%)、次に「市販のもの」(42.0%)が多数意見だった。地域別には差はみられなかったが、施設別の「広告紙や包装紙などを利用した手作りのものと市販のものを併用」は、幼稚園(52.9%)、保育所(62.4%)と保育所のほうが若干多かった。また、経験年数別の「市販のもの」に着目すると、「～3年」(60.0%)、「～10年」(49.3%)、「～20年」(41.4%)、「21年以上」(33.7%)と経験年数が高くなるにつれ減少し、反比例して「広告紙や包装紙などを利用した手作りのものと市販のものを併用」が「～3年」(40.0%)、「～10年」(49.3%)、「～20年」(58.6%)、「21年以上」(65.3%)と増加している。

表4 「折り紙の使用状況」

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
広告紙や包装紙などを利用した手作りのもの	0.4%	0.0%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
市販のもの	42.0%	44.2%	40.0%	45.7%	37.6%	60.0%	49.3%	41.4%	33.7%
広告紙や包装紙などを利用した手作りのものと市販のものを併用	57.3%	55.8%	58.6%	52.9%	62.4%	40.0%	49.3%	58.6%	65.3%
その他	0.4%	0.0%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%

(5) 表5 「子どもが製作する端午の節句の『こいのぼり』づくりの状況」

設問選択肢の「手作りの素材から自由に作る」では事前調査で、保育雑誌で紹介された内容を手作りしたものは手作り素材と言えるのだろうかという混乱があった。この場合、既製のものは業者が用意した素材などで形が画一的なものが出来上がるものを指し、保育雑誌から方法、案などを取り込むものは、その範疇にないとした。その上で全体をみると、最も多数であった意見が「手作りの素材から自由に作る」(68.2%)、次に「市販のもの」と手作り教材の併用」(26.3%)であった。「その他」(2.0%)の意見は、「作らない」等であった。全体、地域別、施設別、経験年数別それぞれをみると回答傾向は似通っている。

表5 「子どもが製作する端午の節句の『こいのぼりづくり』の状況」

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
教材業者等から 入手した既成の もの	3.5%	4.2%	2.9%	6.5%	1.7%	6.7%	5.3%	4.3%	1.1%
手作りの素材から 自由に作る（保育 雑誌を参考にした ものも含む）	68.2%	75.8%	62.1%	62.1%	76.1%	60.0%	65.3%	70.0%	70.5%
市販のもの」と手 作り素材の併用	26.3%	17.5%	33.6%	29.7%	22.2%	33.3%	28.0%	22.9%	26.3%
その他	2.0%	2.5%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	1.3%	2.9%	2.1%

(6) 表6 「手作りの視聴覚教材についての考え」

全体をみると、「市販のもの」と使い分けるのが良いと思う」(88.6%)が多数意見で圧倒的である。全体、地域別、施設別、経験年数別それぞれをみると回答傾向は似通っている。

表6 「手作りの視聴覚教材についての考え」

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
できるだけ手作 りのものが良い と思う	6.3%	8.3%	5.0%	8.0%	4.3%	13.3%	4.0%	10.0%	4.2%
市販のものが良 いと思う	3.5%	1.7%	5.0%	4.3%	2.6%	13.3%	4.0%	2.9%	2.1%
市販のもの」と使 い分けるのが良 いと思う	88.6%	88.3%	88.6%	86.2%	91.5%	73.3%	90.7%	85.7%	91.6%
その他	0.8%	1.7%	0.0%	0.7%	0.9%	0.0%	1.3%	1.4%	0.0%

(7) 表7「手作りの視聴覚教材のよさについて」

全体の割合は、「子どもと保育者の心の交流がもてる」(37.3%)、「温かい人間関係ができる」(19.2%)、「自作自演の長所が生かせる」(54.5%)であった。

「その他」(3.9%)には、以下の意見があった。

- ・保育者が手作りすることによって教材への愛着を強くもって子どもに提供することがよりよい場を作れる。
- ・そのときの子どもの実態に合わせて適切なものが用意できる。
- ・手作りだと子どもが喜んでくれる。
- ・子ども自身が作り、物語に共感したり、想像したりする力がつく。
- ・思いが込められている。
- ・保育のねらい、伝えたい部分に有効なように作ることができる。
- ・教材への愛着をもって子どもに提供することがよりよい場を作れるのでは…と思います。
- ・保育の中で子どもへの刺激になる。

地域別、施設別のいずれにおいても大きな差はみられなかった。経験年数別においては「その他」の割合が、「～3年」(0.0%)、「～10年」(4.0%)、「～21年」(2.9%)、「21年以上」(5.3%)であり、経験を積み重ねると様々な角度から良さを実感していることが伺えた。

表7「手作りの視聴覚教材のよさ」(複数回答)

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
子どもと保育者の心の交流がもてる	37.3%	34.2%	40.7%	34.1%	41.0%	40.0%	36.0%	42.9%	33.7%
温かい人間関係ができる	19.2%	20.8%	17.9%	19.6%	18.8%	13.3%	21.3%	17.1%	20.0%
自作自演の長所が生かせる	54.5%	58.3%	51.4%	49.3%	60.7%	26.7%	53.3%	52.9%	61.1%
その他	3.9%	5.8%	2.1%	5.8%	1.7%	0.0%	4.0%	2.9%	5.3%

(8) 表8・表9「手作り視聴覚教材の使用状況」について

全体の割合は、「使用している」(16.1%)、「使用していない」(8.6%)、「既製のものと同併用している」(73.7%)、「分からない」(1.2%)、「その他」(0.8%)であった。

手作り教材の視聴覚教材は、全体の平均値は、「紙芝居」(1.5冊)、「絵本」(0.8冊)、「指人形」(1.5セット)、「ペープサート」(4.4セット)、「パネルシアター」(5.3セット)、「エプロンシアター」(1.7セット)、「その他」(0.1セット)であった。パネルシアターを手作りしている数が最も多く、逆に絵本は手作りすることが最も少ないということが分かる。全種類の平均値を見ると、地域別・施設別ともに大きな差はみられなかった。経験年数別では、「～3年」(1.0セット)、「～10年」(1.7セット)、「～20年」(2.6セット)、「21年以上」(2.5セット)と経験年数の高い方が若干、数量が増えていた。

表8「手作り視聴覚教材の使用状況」

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
使用している	16.1%	15.8%	15.7%	19.6%	12.0%	13.3%	8.0%	18.6%	21.1%
使用していない	8.6%	6.7%	10.0%	11.6%	5.1%	20.0%	6.7%	4.3%	11.6%
既製のものと同併用している	73.7%	76.7%	72.1%	65.9%	82.9%	66.7%	84.0%	75.7%	65.3%
分からない	1.2%	0.8%	1.4%	2.2%	0.0%	0.0%	1.3%	1.4%	1.1%
その他	0.8%	0.0%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	1.1%

表9「手作り視聴覚教材の平均使用状況数」

	全体	地域別		施設別		経験年数別			
		関東	青森・ 沖縄	幼稚園	保育所	～3年	～10年	～20年	21年 以上
紙芝居	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	0.7	1.1	1.6	1.9
絵本	0.8	0.7	0.9	0.6	1.0	0.1	0.6	0.9	1.0
指人形	1.5	1.4	1.5	1.2	1.8	1.1	0.7	2.1	1.7
ペープサート	4.4	4.1	4.6	4.1	4.6	2.1	3.8	5.1	4.5
パネルシアター	5.3	4.9	5.6	5.0	5.6	2.4	4.4	6.0	6.0
エプロンシアター	1.7	1.3	2.1	1.3	2.2	0.9	1.1	2.1	2.1
その他	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2
全種類	2.2	2.0	2.3	2.0	2.4	1.0	1.7	2.6	2.5

2. 考察

(1) 手作り教材の捉え方

アンケート結果によると（表1）のように手作り教材を肯定的に捉えている保育者が6割以上を占めており、保育者が手作り教材のよさ、すなわち使用に対する利点を認識していることが考えられる。その一方、保育経験年数が高いほど肯定も否定もしない「どちらともいえない」と回答した割合が増加傾向にあった。これは、手作り教材の使用に関し、よい面とそうでない面を見出しているということが推察される。

(2) 実際の手作り教材の使用状況

実際に手作り教材を使用しているか否かでは、地域別、施設別のいずれにおいても特に大きな差は見られなかった（表3）。こいのぼり作りでも同様の結果である。ただし、折り紙の使用状況については保育経験年数が高いほど手作りのものを使用していく傾向があった（表4）。要因として考えられるのは、経験により日常の保育が円滑に行えることで広告紙や包装紙などを利用した手作りのものを作成できる時間の余裕が生まれているのではないかということである。また、日常の保育で綺麗な市販の折り紙でも手作りの折り紙でもほぼ同じ効力があると考え、保育に多く取り入れるようになったなどが考えられる。

(3) 手作り教材の捉え方と実際の使用状況のずれ

全体的な手作り教材の使用状況において地域別、施設別、経験年数別と似通った結果が得られているが（表3）、手作り教材の捉え方に関して保育経験年数による比較をしたとき（表1）、経験が浅い保育者ほど手作り教材をより肯定していた。しかし、折り紙の使用状況においてはむしろ経験豊富な保育者のほうが手作りの折り紙を活用していた。このことから、実際は手作り教材を使用しているにも関わらず「どちらともいえない」と回答した保育者は多いと考えられる。

ここで、現場での経験を積み重ねた保育者の半数近くが、手作り教材を使用しているのに「できれば手作りが良いと思う」とせずに、あえて「どちらともいえない」と回答した点に注目し、その背景にはどのような理由があるのか考察した。

今回は、手作り教材あるいはその中の手作り視聴覚教材に焦点を当てて調査を行なったが、手作り教材については、子ども達が製作するものと保育者が製作した完成品、更には、保育者が演じてみせる視聴覚教材と子ども達が直接接触して遊ぶ教材と細かく分けられ、それぞれに対する保育者の考え、またはその現状が異なっているように思われた。その点で、手作り教材としての対象物が混合してしまった可能性が一つに考えられる。

また、今回のアンケートでは「手作り教材を使用しない理由」として、使用していない人に限って手作り教材のマイナス点を質問したが、市販の良さを質問することはしなかった。そのため、全アンケートの中の自由記述から市販と手作り教材の使用の差がどこで生まれるかを

探った結果、以下の意見が理由として挙げられた。

まず一つ目は、「手作りできず良いもの（型はめ、ゲーム）は使う」というように手作り教材に限らず市販のものへの良さを見出している意見である。そして、「市販の良いものもたくさんあるので、十分活用すると共に、幼児の実態にぴったりくるためには合わせて作ることも大切だと考えます。」「手作りのものに良さがあるように市販のものや既成のものにも良さがあると感じるので、うまく併用したり良さを引き出せるように使っていけたらと思います。」と、市販のものをそのまま与えるのではなく、乳幼児の発達段階に合わせて実態に合ったものを選択していることが伺えた。

二つ目に、「自然物を利用する場合、保存が難しく少し遠のいてしまう傾向がある。」「既成のものは長期的に使用でき、自作のものはそのとき（作者の思いが強く）がピークになってしまう。」というように、手作り教材の長所が生かしきれない場面もあることが伺えた。前者の場合、自然物を利用する際は工夫するために作り方を工夫しなければならないことや、どうしても壊れやすいものもあるので補強することが必要となってくる。既製のものに比べて手をかけなければならない分、保育者にとっても愛着がわく反面、日々保育に追われる保育者にとっては大変な労力となるようである。後者は、次のことがいえよう。作者の思いが強いということは、言い換えればそれだけ心が込められているということであり、手作り教材において最も優れている面といえる。そのときの子ども達に使用して欲しいという願いで製作した保育者は、変わりゆく子ども達を前にまた新たに手を加えたり他のものを製作したりすることになり、使用する期間は短くなってしまいうようであった。

（４）手作り視聴覚教材の捉え方と使用状況

使用状況において手作りをしている数が種類ごとに異なり差があったことは、視聴覚教材の「市販のものと手作りのものを使い分けた方がよい」が圧倒的多数であったことを裏付けている。

絵本や紙芝居は手作りすることが少ないようであった。これは、市販されているものが多くその中から子ども達に読み聞かせたいものを十分に選択することができるためと考えられる。一方、パネルシアターやペープサートは、最も手作りすることが多い結果となった。絵本や紙芝居のように市販されているものが少ないことや、指人形やエプロンシアターのように裁縫するのではなく手に入りやすい材料で簡単に作れることが大きな要因といえるであろう。

Ⅳ. 結語

手作り教材は、保育活動における有効な手段として幼稚園開設当初から創意工夫の努力が展開されていた。それは現在においても自己満足や経費節減のためといった次元のものではなく、保育者と子どもの直接的心情の交流を希求した、いわば、温かい人間関係性の具現化を目指したものである。ややもすると形骸的でマンネリ化した教材に対して、手作りの情熱と新鮮な感性の息吹を子どもに与える意義は大きい。

本研究は、保育の第一線で活躍している主任、及び新しい感性の持ち主である若き保育者を対象に、手作り教材に関する考え方と、保育現場における手作り教材の実態について調査したものである。その結果は仮説に沿うものであり、保育者の意義は手作り教材を志向しているものの、保育現場ではごく限られた一部の教材についてのみ手作りがなされ、大半の教材は市販されている既製品に依存している実態が浮き彫りになった。

市販されている教材全てを否定する必要はないし、積極的に利用した方が有効である場合もある。しかし、市販の既製教材と手作り教材の使い分けを見直し、手作り教材の再認識と保育活動の有効性について考察し、保育方法論のなかで再検討する必要がある。

保育の現状には日々の生活に追われた多忙な実態があり、保育者の心情と保育実践との現実のずれを今回の調査が示唆しているが、手作り教材の良さをより生かすためには、保育活動の全体構造のなかで、保育活動のゆとりと手作り教材の意義をもう一度改めて確認することが求められよう。

【参考文献】

- 日名子太郎・細野一郎・藤樫道也「保育内容総論」学芸図書 1997年
- 日名子太郎(編)「新保育学概論」同文書院 1983年
- 日名子太郎(編)「保育学概論」学芸図書 1991年
- 上野辰美「現代幼児教育の理論」明治図書 1968年
- 山内昭道・幼児の自然教育研究会(編)「子どもと環境」文化書房博文社 2000年
- 森上史郎「保育原理1」ミネルヴァ書房 2001年
- 勅使千鶴「子どもの発達と遊びの指導」ひとなる書房 1999年
- 永田桂子「よいおもちゃとはどんなもの」高文堂出版社 1994年
- 松井寿美子「手作り教材に関する学生の捉えかた」
聖カタリナ女子短期大学紀要第31号 45-55頁 1998年
- 福岡貞子他「エプロンシアターの研究1」日本保育学会NO.42 530-531頁 1989年
- 寺島明子「遊具について：乳幼児の発達に合った手作り玩具」
日本保育学会 370-371頁 2004年
- 寺島明子「学生のイメージする『既製玩具と手作り玩具』に期待している点：アンケート調査から分析」松本短期大学紀要第15号 79-87頁 2006年

資料（本調査における設問項目）

「手作り保育教材について」のお尋ね

次の質問項目の該当箇所に○印または自由記述でご回答下さい。

問1 貴殿は次の内のどれに該当しますか。

経験保育年数： ア 3年以内 イ ～10年以内 ウ ～20年以内 エ 21年以上

性 別： ア 男 イ 女

職 名： ア 園長 イ 主任 ウ 教諭 エ 保育士 オ その他

問2 貴園は次の内のどれに該当しますか。

ア 幼稚園 イ 保育園 ウ 認定子ども園

問3 貴園の規模（在籍数）は次のうちのどれでしょうか。

ア 100人以下 イ ～200人以下 ウ ～300人以下 エ 300人以上

問4 手作り教材（廃材、自然物を含む。以下教材という）についての考えをお尋ねします。

ア. 教材は絶対に手作りがよいと思う。

イ. 教材はできれば手作りがよいと思う。

ウ. 教材は手作りでない方がよいと思う。

エ. どちらともいえない。

オ. わからない。

問5 手作り教材のよさは何ですか。（問4でア、イと考えた方のみ回答ください）

ア. 手作りの温かさがある。

イ. 費用がかからない。

ウ. 創意工夫の余地がある。

エ. 画一的でない。

オ. その他（ ）

問6 保育現場では、手作り教材を使用していますか。

ア. 手作り教材を使用している。

イ. 手作り教材を使用していない。

ウ. 手作り教材と既製のものを併用している。

エ. その他（ ）

問7 手作り教材を用いない理由は何ですか。(問6でイと答えた方のみ回答ください)

ア. 時間的ゆとりがない。

イ. 費用的ゆとりがない。

ウ. 特にない。

エ. その他 ()

問8 貴園で使用している「折り紙」は次の内のどれに該当しますか。

ア. 広告紙や包装紙などを利用した手作りのもの。

イ. 市販のもの。

ウ. 広告紙や包装紙などを利用した手作りのものと市販のものを併用。

エ. その他 ()

問9 子どもが制作する端午の節句の「こいのぼり」作りは次のうちのどれでしょうか。

ア. 教材業者等から入手した既製のものを組み立てる。

イ. 手作りの素材から自由に作る。(保育雑誌を参考に制作したものも可)

ウ. 市販のものと手作り素材の併用。

エ. その他 ()

問10 視聴覚教材についての考えをお尋ねします。

ア. 視聴覚教材はできるだけ手作りのものがよいと思う。

イ. 市販のものがよいと思う。

ウ. 市販のものと手作りのものを使い分けるのがよいと思う。

エ. その他 ()

問11 手作りの視聴覚教材のよさは何ですか。(問8でア. ウと答えた方のみ回答ください)

ア. 子どもと保育者の心の交流がもてる。

イ. 温かい人間関係ができる。

ウ. 自作自演の長所が生かせる。

エ. その他 ()

- 問12 保育現場では、手作りの視聴覚教材を使用していますか。
- ア. 手作り教材を使用している。
 - イ. 手作り教材を使用していない。
 - ウ. 手作り教材と既製のものを併用している。
 - エ. わからない。
 - オ. その他 ()
- 問13 手作りの視聴覚教材を用いない理由は何ですか。(問10でイと答えた方のみ回答ください)
- ア. 時間的ゆとりがない
 - イ. 費用的ゆとりがない
 - ウ. 特にない
 - エ. その他 ()
- 問14 貴園では現在使用している手作りの視聴覚教材がいくつありますか。
- ア. 紙芝居 (手作り セット)
 - イ. 絵本 (手作り 冊)
 - ウ. 指人形 (手作り セット)
 - エ. ペープサート (手作り セット)
 - オ. パネルシアター (手作り セット)
 - カ. エプロンシアター (手作り セット)
 - キ. その他 ()
- 問15 保育教材についてとくにご意見がありましたら自由にお書き下さい。

ご協力を頂き誠に有難うございました。
心から厚く御礼申し上げます。